

フリーペーパー ペッコ

PECCO

VOL.65 2023.11



岩手県立図書館



貼った? 破いた? 噛んだ? 書いた? こぼした?

図書館の本を汚してしまった。 ～弁償するのはどんなとき?～



「図書館から借りてる本を汚してしまった!」なんてことは、誰にでも起こりえる意外に身近な出来事です。実際、岩手県立図書館での**去年の弁償件数は「61件」**でした。そこで今回は、弁償に至るまでの流れを踏まえながら、そめちゃんがわかりやすく解説! さらに、資料を大事に扱うためのポイントもあわせてご紹介します。

弁償事例

ここが
肝心!!

修理をして正常に読める状態に戻せるかがポイント。読むのに支障が出る場合は弁償の対象になります。

ページの破れ



本が破損してしまった場合は、ご自身で修理せず**そのままの状態**で図書館までお持ちください。



自分で修理、ダメ・セツタイ!
セロテープを使うとかえて資料を傷める原因になるよ。

怒られたりしないのでありのままの状態を持ってきてください。

水濡れ



水に濡れてしまった本は適切な処置を施さなければゴワゴワになってしまい、元に戻すことができなくなってしまいます。また保管状況によってはカビが生えてしまったり、ページ同士がくっついてしまうことも。しかし、水に濡れた状態ですぐに図書館へお持ちいただければ、修復可能な場合もあります。



天気によっては「ビニール袋に入れる」など、濡らさないための事前対策がおすすめ!



赤ちゃんやペットが噛んだ



赤ちゃんやペットが本の角を噛んで歯形がついた…。唾液や血液などの付着は、衛生面の観点から**弁償**をお願いしています。



誰が噛んでも噛んじゃったものは100%弁償だよ。



コーヒーをこぼした



コーヒーの染みが本文に被ってしまって読むのに支障が生じるような場合や、汚れが広範囲にわたる場合は、**弁償**をお願いすることがあります。

食べ物の付着はカビの原因になるんだって。ページがくっついたりシミになったりするから、図書館の本を取り扱う時は十分に注意してね。



ワインも然り。

借りている資料を失くしたり、汚してしまった場合は、まずは図書館までご連絡ください。

弁償の流れ

本を汚したら? → スタッフまでお申し出を

汚れ・破損したままの本をブックポストへ入れると、状態がさらにひどくなるほか、他の資料へも影響します。ブックポストには返却せず、必ずカウンターへ直接お持ちください。

どーも。あのね、わたし、修理できます?



スタッフが、弁償が必要な状態かを確認してお知らせします。



弁償が必要になったら? → 同じ資料を探して購入

弁償資料の情報が記載された「弁償資料納入通知書」をお渡しますので、同じ資料を探して購入し、図書館へお持ちください。

これはOK?

汚した本はハードカバーだけど文庫本を買ってきました!

いずれもダメ

汚した本は初版本だけど改訂版を買ってきました!

必ず指定された資料を購入してください。

図書館資料として利用できる状態であれば中古でもOK!

探しても同じ本がない! → 代替資料を購入

絶版など、どうしても見つからない場合は図書館へご相談ください。テーマ、価格、作者、内容などをふまえ、代わりに購入をお願いする代替資料をお知らせします。

DVDやビデオの場合の弁償

現物購入ではなく振り込みです。

ここが違う!!

しかも高額!



図書館のビデオやDVDは、貸出を行うための「著作権補償金」が含まれているので、弁償金も高額! しかも、一般には買えないから図書館側で購入するんだよ。

意外にやりがち! 本に対するNG行為

書き込み



全部ダメ!

鉛筆 ポールペン マジック マーカー



消しゴムで消せばいいからと鉛筆で書き込みをしてしまう方もいますが、鉛筆での書き込みももちろんダメ。消しゴムで消す際に印字が薄くなったり、紙の表面を削ったり、破いてしまう恐れがあるためです。何であつても本への書き込みは絶対にしないようお願いします。

付箋紙



最近は糊が強力だ。

取ったらベタベタした。

貼って剥がせるタイプの付箋紙は、きれいに剥がせているように見えて、僅かに糊が残っていることも。糊が残ってしまうと、資料の劣化の原因になってしまいます。また、長期間貼りっぱなしになっていた場合は、剥がす際にページの表面ごと剥がれてしまうことも。特に岩手県立図書館には古い本も多く、紙が傷みやすくなっています。

カウンターにしおりを用意してるのでそれを使ってね!



図書館の本は大切に

図書館で所蔵している本は今も市販されているとは限りません。特に郷土資料は、再入手が難しい本、岩手県立図書館でしか所蔵していないという本が多いです。10年後、100年後に、その本を必要としている人に届けるためにも、大切に扱きましょう。



海よ光れ！

3・11被災者を励ました学校新聞

田沢 五月 文／国土社

2011年3月11日に発生した東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県山田町。大沢地区に住む人たちは、大沢小学校に避難し、困難を乗り越えるために力を合わせます。その姿をみて、大沢小学校の子どもたちが今の自分たちに何ができるのかを考え、取り組んだことを伝える感動のノンフィクションです。著者は奥州市在住です。



自然をこんなふうに見てごらん 宮澤賢治のことは

澤口 たまみ 著／山と溪谷社

木の芽の宝石、春の速さを見る、風の指を見る…。宮澤賢治の後輩として、その作品を読み解くことを続けているエッセイストが、賢治の残した自然にまつわる57の言葉を、美しい写真とともに丁寧に紐ときます。身近な自然に目を向けてみたくなる一冊。著者は盛岡市出身紫波町在住です。



桃を煮るひと

くどう れいん 著／シミ社

デビュー作『わたしを空腹にしないほうがいい』から5年。多方面で活躍する作家の食エッセイ第2弾が発行されました。無性に食べたくなるカリカリ梅、冷麺に乗っている果物で感じる四季など、身近な食を綴ったエッセイに共感と空腹を感じることも間違いなし。著者は盛岡市出身在住です。



本屋、地元生きる

栗澤 順一 著／KADOKAWA

いずれ本屋は町から消えてしまうのか？生き残る本屋になるにはどうすればよいのか…。書評書きから、ラジオ出演、イベント企画、オリジナル醤油のパッケージ開発まで。「待つの本屋」から「使ってもらう本屋」への転換を手がける書店員の地元へ寄り添った実践を紹介します。



漁師犬タロウ

尾崎 たまき 写真・文／新日本出版社

岩手県田野畑村で飼い主の漁師キンちゃんに船に乗り、みんなから漁師犬と呼ばれる犬のタロウのお仕事は、エサの魚を横取りするカモメを追い払うことです。タロウは2011年3月11日の大震災で津波に流され、9日かけて生還し…。タロウとキンちゃんの深いつながりが心を温かくする写真絵本です。



佐々木喜善年譜【令和版】

鈴木 修 著／ツワフライヴ

柳田國男をはじめ、多彩な人物との交流が多くあったとされる佐々木喜善。そんな佐々木喜善をより深く知ることができる令和版の詳細年譜が出版されました。喜善に関する情報を「喜善日記」など豊富な参考書籍・諸資料等から収集しており、時日・事柄を詳しく知ることのできる年譜となっています。著者は金ケ崎町出身です。